

TOPICS



ボンバルディエ社の地下鉄車両

NYの地下鉄に力ナダ製車両
ボンバルディエ社が受注

五月中旬に行われたニューヨーク市地下鉄車両入札で、力ナダ

の車両メーカー、ボンバルディエ社（本社モントリオール）が、日本の川崎重工業と共に成約した。

ボンバルディエ社の契約額は約十億力ナタドルで、受注車両は八百二十五台。

同社ではモントリオール近辺にある工場で車両を製作し、米バーモント州の工場で最終組み立てを行なう。車両は八四年七月から八五年五月までに引き渡される予定。

ボンバルディエ社の新車両は、日本製と同様、ニューヨークの地下鉄で現在一番古い車両が使われているIRT線を走ることになります。

トロントで自動車部品ショウ 技術交流・取引の場を提供

国際自動車部品ショウ「SITEX

アメリカ82」が、十一月二日から四日まで、オンタリオ州トロントのカナダ博覧会場で開かれる。

これは自動車メーカー、部品メーカー、関連資材メーカー、研究機関、運輸あるいは投資、情報など関連各分野の関係者が出展・参加して、技術交流・企業提携などのあり方を考え、また取引をする場を提供するのが基本目的。ショウの期間中、出品参加者は新技术、新製品を紹介し、さらにショウ主催者（オンタリオ州）が組織する技術、情報セミナーなどの催しに参加できることになつていている。

日本からも、自動車メーカーおよび部品メーカーが参加する。

CANDU炉の父に

カナダのCANDU原子力計画の父と呼ばれるW・ベネット・ル

イス博士（七十四歳）に、このほどアメリカ政府エネルギー省から有名な「エンリコ・フェルミ賞」（金メダルと賞金二万五千ドル）が贈られた。受賞理由は、「原子力の開発・利用・制御・科学的管理、原子力工学における優秀かつ傑出した科学的・技術的業績」。

レーファン大統領のサインが入った賞状は、研究および発電用としての「重水減速材原子炉の推進、カナダの原子力開発におけるリーダーシップ、国際原子力機関を通じた原子力利用・制御に対する貢献」をあげて、ルイス博士を賞賛している。

今年の「フェルミ賞」の唯一の受賞者となつたルイス博士は、一九七三年にカナダ原子力公社を引退するまでCANDU原子力計画の科学面を担当していた。原子力の平和利用を堅く信じ、国際原子力機関（IAEA）に二十年間籍を置いていた。以前、「平和のための原子」賞も贈られている。

イス博士（七十四歳）に、このほどアメリカ政府エネルギー省から有名な「エンリコ・フェルミ賞」（金メダルと賞金二万五千ドル）が贈られた。受賞理由は、「原子力の開発・利用・制御・科学的管理、原子力工学における優秀かつ傑出した科学的・技術的業績」。

レーファン大統領のサインが入った賞状は、研究および発電用としての「重水減速材原子炉の推進、カナダの原子力開発におけるリーダーシップ、国際原子力機関を通じた原子力利用・制御に対する貢献」をあげて、ルイス博士を賞賛している。

今年の「フェルミ賞」の唯一の受賞者となつたルイス博士は、一九七三年にカナダ原子力公社を引退するまでCANDU原子力計画の科学面を担当していた。原子力の平和利用を堅く信じ、国際原子力機関（IAEA）に二十年間籍を置いていた。以前、「平和のための原子」賞も贈られている。

自転車混雑に新兵器 一平米に十台駐車

日本では駅前などの「自転車公害」が問題になつていて、混雑緩和にカナダ人が開発した「バイク・ラック」（写真）はいかが。これは長さ約一・五メートルの両側に穴を開けたみぞ形金属棒を十本、ぐるりと立てただけのもので、みぞ部分にタイヤをはさみ、穴にはめたビンで車体を固定する。こうになつて車体を固定する。これだと、約

一メートル四方の場所に十台の自転車が駐車できることになり、駐車場などの狭いスペースが活用できるし、盗難防止にもなる。

「バイク・ラック」というもうひとつの方法は、例のみぞ形金属棒を外壁や柱に縦にとりつけ、あるいは地面にコンクリートで固定する。



日加、自動車問題で了解 一月以降の台数は継続審議

懸案となつていた日加自動車問題について、両国間で合意が成立した。

日本の通産省の見通しによると、今年の七月一日から十二月末までの日本のカナダ向け乗用車は六万台三千台以下になる予想で、年間では十五万三千台レベルになる。これは一九八一年一月から十二月の輸出台数より二三・五パーセント少ない。

来年一月の輸出台数について

ては、年末に再度協議する。

両国政府はまた、双方の自動車産業同士の今後の協力について具體策を探ることになっている。

ラムリー国際貿易大臣とグレイ

通商産業大臣は、自動車分野での両国の産業協力を高め、日本車におけるカナダ製部品の増大につながるものとして、これらの協議を特に重視していると述べている。

両大臣はまた、日本側の新しい輸出見通しにより、カナダの自動車産業はその再編成計画を遂行し、新世代の低燃費型自動車へ方向転換をする時間を得たことになり、自動車業界内部の投資環境が改善され、業界の自信が強まるものと見て、日本の措置を歓迎している。

自動車業界内部の投資環境が改善され、業界の自信が強まるものと見て、日本の措置を歓迎している。

自動車業界内部の投資環境が改善され、業界の自信が強まるものと見て、日本の措置を歓迎している。

自動車業界内部の投資環境が改善され、業界の自信が強まるものと見て、日本の措置を歓迎している。

「情報公開法」が議会通過
公的文書の閲覧を大幅保証

カナダ連邦議会は、六月末「情報公開・プライバシー法」を採択した。同法は今年末に公布される見込みで、これにより、カナダ国民は公文書を広範囲にわたって閲覧することができるようになる。

同法によると、政府が保管している文書の全目録が全国の図書館および公的機関に配布される。カナダ国民または永住者は、最高十五ドルの手数料を払つてこの目録から必要な項目を探し出す。こうして特定の文書をそれぞれ該当する政府省庁に請求する。作成後三年未満の文書はただちに入手で